

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

349号

2020年3月号

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

「人権」と「外交」、再び問われる韓日当局の 徴用工・「慰安婦」問題の解決姿勢

2015年12月28日、韓日外相の共同記者会見で「慰安婦」問題の最終的解決についての「合意」が発表された。米国の強い勧告で安全保障を優先させた結果、被害女性たちの反発を招いた。キャンドル革命で誕生した文在寅政権は発足直後、「慰安婦」合意の交渉過程を検証する作業を実施した。結果「少女像」撤去や国際社会で「性奴隷」との表現を使わないなど裏面合意があったことなどが明らかになり、被害者らの怒りは頂点に達した。文大統領は被害者中心のアプローチを強調するも、日本政府との再協議には言及していない。

その後、2018年10月30日の韓国大法院による元徴用工被害者らに日本企業が賠償するよう命じた判決以降、再び韓日関係は緊張することとなった。

日本政府はホワイト国リストから韓国を除外する措置を取り、韓国政府はGSOMIA（韓日軍事情報包括保護協定）終了宣言など緊張が増す一方の様相を呈した。最悪の事態とマスコミは報じた。しかし最近、日本側から関係を改善する動きが見える。以下その背景を探る。

韓国内で大法院判決に基づき強制執行（財産押収）と現金化が進行する中、現金化を回避する動きが双方から表面化した。きっかけは文喜相（ムンヒサン）国会議長の「記憶・和解・未来財団」提案だったが、内容が一方的に韓国企業と韓国政府が片務的に被害者救済事業を行うなどで反発する声が多く、実現の見通しは薄い。こんな中、次のような記事が報道された。韓日議員連盟の姜昌一（カン・チャンイル・共に民主党）会長は9日、東京都内

で自民党の二階俊博幹事長と面会し、韓日関係の改善策などについて意見交換した。日韓議員連盟の河村建夫幹事長（自民党）も同席した。姜氏は二階氏らとの面会后、聯合ニュースの取材に対し「二階幹事長は未来の世代のためにも韓日関係をうまく解決していこうと話し、私も共にうまくやっていこうと応じた」と伝えた。二階氏は「近く、1000人規模で韓国を訪問する」と話したという（東京聯合ニュース01.09）。



▲姜昌一議員と二階幹事長

今、日本を取り巻く状況は、年を追うごとに強くなる中国の海洋進出と「核」と「ミサイル」を持ったまま対米交渉を打ち切った朝鮮、さらに北方四島返還交渉が何ら進展もないままロシアは「アメリカに対して、千島列島周辺海域での軍事的優勢を確固たるものとする方策の一つとして、ロシア軍は国後島と択捉島に地対艦ミサイルを配備するとともに、ミサイル部隊防衛のための陸上戦力も精鋭化し始めたのである（Globe+2020.01.24 北村淳）」など、安全保障面で不安を抱えたまま、米軍の新基地建設で非難の口実を与えている。この状況を緩和するためには韓国を味方につけることが、日本の国益に資するとの声が高まってきている。国と国の事情で外交上の懸案処理の立場からの関係改善が、元徴用工・「慰安婦」被害者らを置き去りにすることがあってはならない。韓日双方の市民が連帯して、双方の政府を監視し、できれば当局間交渉の場に被害者が同席できるよう働きかけよう。

（鐵）

韓日関係をテーマに、 金昌五副代表委員が講演 組合総研第3回教養セミナー

中小企業組合総合研究所（略称：組合総研）の「第3回教養セミナー」が2月20日（木）、協同会館アソシエ（大阪市東淀川区）で行われた。

樋口万浩副理事長は開会挨拶で「本来、挨拶を行うべき組合総研理事長である関西生コン支部の武健一委員長が、現在も不当に長期拘束されているが、不当弾圧に対して闘うとともに学習も怠らないようにしよう」と呼びかけた。



▲韓日関係をテーマに講演する金副代表委員

続いて、金昌五（キム・チャンオ）韓統連大阪本部副代表委員が「なぜ、最悪の状況になったのかー現在の韓日関係について考えるー」と題して講演を行った。金副代表の講演スタイルとしてすっかりおなじみになったが、ホワイトボードにマグネットシートを張り付けながら、スライドショーと動画も交えた講演に参加者は熱心に聞き入っていた。

講演を通して、安倍首相の「慰安婦問題と徴用工問題は解決済み」がいかに欺瞞に満ちたものであるかが明らかにされ、今後の日本政府の課題として①経済制裁など場外乱闘をやめて、慰安婦問題と徴用工問題に真摯に取り組むこと、②韓日間の歴史認識の差異を埋める努力を行うこと、③南北関係と朝米関係の大きな変化に抵抗するのではなく、朝日国交正常化に積極的に取り組んでいくこと、を強調した。

最後に武洋一理事が閉会挨拶で、武健一委員長らに対する不当弾圧の実態と今後の展望について報告された。

建国の日は国民主権に反する日 オリンピックの年である前に、敗戦75年 2・11建国記念の日反対集会

2月11日の建国記念の日に反対する取り組みとして「2・11“建国記念の日”反対！天皇&オリンピックによる“国民統合”NO！ー“日の丸・君が代”強制もゴメンだー（主催：“日の丸・君が代”強制反対・不起立処分を撤回させる大阪ネットワーク）」が2月11日（火）、大淀コミュニティセンター（大阪市北区）で開かれた。

集会では「日の丸・君が代」強制反対・不起立処分を撤回させる大阪ネットワーク代表の黒田伊彦さんが主催者挨拶を通じ「建国の日は、天皇による支配を喜べという国民主権に反する日だ」と述べるとともに、「日本政府はオリンピック、パラリンピックを復興五輪と位置づけ、国民統合を呼び掛けているが、断固反対の声をあげなくてはならない」と語った。

続いて、元琉球大学教授、「オリ・パラ学習読本」住民監査・損賠訴訟原告の高嶋伸欣さんが講演を行った。高嶋さんは講演の中で「教育勅語（1890年）以前は、“あたりはずれの天皇”観が定説だったが、教育勅語体制下で天皇の神格化が学校を通じて徹底され、“紀元節”も定番化した」と語った。

そして「今年はオリンピック、パラリンピックイヤーである前に、敗戦から75年ということを忘れてはならない」と述べながら、「オリンピックに便乗する国家主義の扇動に立ち向かっていかなくてはならない」と訴えた。

講演終了後は、各地方で行われている「日の丸・君が代」強制反対などの活動報告と朝鮮高級学校無償化を求める連絡会・大阪など各団体からの連帯アピール、不起立バンドによるライブ、集会のまとめと行動提起が行われ、集会は終了した。



3・11 東日本大震災から9年を迎えて

仙台在住 申孝信(シン・ヒヨシ)

今年、東日本大震災から9年を迎えました。今号では、震災直後から復興支援活動を行っている申孝信氏から、復興支援の報告などを書いて頂きました。

「千年に一度」と言われる未曾有の震災に見舞われた直後、途方にくれ茫然自失状態だった私は、韓統連の皆さんからの見舞いと励ましの電話に、どれだけ救われたことか。今でもうまく表現できないくらいです。あらためて感謝の挨拶を送ります。

震災から3カ月後、小さなNPO法人を立ち上げて、韓統連・韓青・民主女性会をはじめとする多くの在日同胞、そして日本の皆さんの協力をいただきながら、被災地の支援活動を続けてきました。特に、宮城県女川町には元日本軍「慰安婦」であった宋神道(ソ・シンド)さんのもとに通っていたという縁もあり、女川町の沖合に浮かぶ出島(いずしま)の女川町立第2中学校(生徒数13名)と島の住民の支援を続けてきました。

13名の生徒達には、彼らが高校を卒業するまで月額1万円の奨学金支給という支援を継続することができたことも全国からの支援の賜物です。

13名が高校卒業を迎えた2017年、「何か復興のシンボルになるような形のある物を」という思いから「希望(しあわせ)の黄色いポスト」を設置しようと考え、準備を進めてきました。それから3年半の時間を費やしましたが、漸く女川町観光協会の敷地内に設置することが決まり、2月6日、女川町長や日本郵政東北支社長などと「ポストオープンセレモニー」を開催しました。黄色に塗装されたポスト(丸型投函箱)は正式な郵便ポストとして使用され、毎日集荷されます。女川町民や、女川町を訪れた皆さんが「きぼう(し

あわせ)の黄色いポスト」から、大切な人や想いを寄せる人へ、手書きのハガキや手紙を投函すると「願い事が叶う」というような、「都市伝説」が生まれることを願っています。来県の際には、ぜひ女川町まで足を延ばしていただきたいと思います。

◆「女川原発2号機」の再稼働に反対

女川原発には3基の原子炉があります。震災当

時、押し寄せた津波の高さは想定されていた9.1mを大きく超える13mでした。津波によって原子炉建屋も浸水し、深刻なダメージを受けました。5系統あった「外部電源」のうち、かろうじて1系統だけが生き残ったため福島原発のような「メルトダウン」を免れたと言われています。

被災後、東北電力は老朽

化していた1号機を廃炉とし、2・3号機の再稼働を目論んで様々な「修理・点検」を続けましたが、19年11月27日「原子力規制委員会」は、東北電力が提出していた「2号機審査書案」を了承し、事実上の再稼働を認めました。しかし、それは周辺自治体とその住民の「安全」を認めた訳では決してありません。事故が起きて避難が必要となった場合、女川町から内陸部へ避難するには県道が一本あるのみで、避難計画は極めて脆弱で非現実と指摘されています。女川原発は震災の影響をもろに受けた、いわば「ポンコツ原発」です。人命より電力会社の利益優先の再稼働はどう考えても反対です。



▲黄色いポスト設置セレモニーのテープカット
ぬいぐるみの隣が申孝信氏

韓国の友人と韓国語で会話をしたい

南野正人

韓統連大阪本部では、韓国語の個人レッスンを行っています。今回、韓国語レッスンを受講している方々から、受講しての感想などを書いて頂きました。今号と次号に分けて掲載します。

私は、韓統連大阪本部事務所で金昌五(キム・チャンウ)さんから、韓国語を教えてもらっている南野正人と申します。韓国語を勉強したいと思うようになった経過と今感じていることを書かせて頂きます。

1974～77年頃に、高峻石(コ・ジュンソク)さんの朝鮮革命運動史を読み、地名と人名の漢字語の朝鮮語の読み方(カタカナ)を学びました。

私は2009年から、韓国・原州(ウォンジュ)でのwalkingとソウルでの水曜デモに参加、ナムムの家、戦争と女性の人権博物館などの訪問に毎年10月に1週間くらい5年間通いました。

2009年、沖縄の辺野古新基地阻止闘争で韓国各地の反基地運動活動家と知り合い、沖縄平和行進を毎年5月に一緒に歩き、2017年には済州島の江汀(カンジョン)村から済州島半周の反基地5日間「100km walking」に

全身体育館泊まりで寝食を共にしました。5ヶ国語で書かれたバス停のハングルが歩きながらの学習に大変役立ちました。

1人で韓国に7回行き、毎回、駅名・道路地名標示を、ハングル表記の下の英語を発音記号としてハングルの子音と母音を読むようにし、子音と母音の表を練習しました。「ハングル10日間」という古本の文庫本を持ち歩いて。

こういう経験の中でwalking、反基地運動、「慰安婦」問題で出会った韓国人＝朝鮮人の友人たちと朝鮮語＝韓国語でしゃべることができるようになりたいと痛切に感じてきました。

2019年4月から、NHKラジオ「ハングル講座」テキストを買って毎日15分、1日2回読み、聴きながら初級編の勉強を始めました。9月末、動詞・形容詞の活用に入って6ヶ月で1クールが終わり、番組は一から繰り返しになり、10月から次の段階のラジオ講座を探しましたが、そ

の次の継続段階がありませんでした。

沖縄・韓国民衆連帯の通訳をされている友人に相談して、私の高校の同学年生である康宗憲(カン・ジョンホン)さんに尋ねてみることを奨められ、メールで問い合わせると韓統連大阪本部の電話番号を送ってくれました。

長い前置きになりましたが、こうして私は金昌五さんと出会い、韓国語を11月から始めることになりました。彼の笑顔と人当たりの優しさが、私にはとてもありがたく感じられます。今、1週間に1回、40分2回を1クールで教えてもらっ

ています。2月中旬段階で3ヶ月が経ちました。日本語にはない子音の発音が難しいです。韓国語には基になっている中国からの漢字語がいかに多くあるか、日本語の漢字語の発音がいかに韓国語に似ているか(語順や助詞などの類似も)それは古代から如何に日本が朝鮮から多くのことを学んできたか、言語

においても兄弟・姉妹的な関係にあったかを、あらためて気づかされます。これほどいい意味で影響を受けてきた隣国の人々に、侵略・虐殺し続けてきた天皇制国家権力であったことを謝罪・賠償するのは、隣人として国家として当然果たすべきことです。

私は、2017年から「NO BASE沖縄とつながる京都の会」で活動しており、京都への電車の中でも本で復習しています。3年後が楽しみです。これからもよろしくお願いします。

安倍政権・ファシスト＝維新・大阪府松井知事・吉村市長を打倒しよう！みんなの力で朝鮮高校一幼保無償化実現、自治体補助金再開を！ヘイトクライム罰則規定の川崎市条例に続こう！

5/10 14:00～京都円山公園野外音楽堂「民衆の国際連帯で東アジアの平和を目指す5・10円山集会」にご参加をお願いします。



▲熱心に韓国語を学ぶ南野さん

【コラム】

朝鮮王朝時代の砂糖

砂糖を毒だという人が居る。事実、過度の砂糖の摂取は糖尿病や脂肪肝、癌などの病気を惹起するという話はよく聞くとところだ。健康のために甘い飲食を控える人も多いだろう。日本における砂糖の消費量は微減傾向である。

それでも砂糖が基本的かつ重要な調味料として存在し続けていることは否定し難い。砂糖は人々を夢中にさせる甘味であり、時に貿易で歴史的役割を果たしてきた。酒やタバコのような依存性があるように思える。

そんな砂糖の原料であるサトウキビは南太平洋が原産。東南アジアを経て世界に伝播し、紀元前4世紀頃には東インドでサトウキビの栽培、そして砂糖の生産が行われていた。

韓国には三国時代～統一新羅時代に中国から砂糖が伝わったと推測されているが、書物に現れるのは高麗時代になる。高麗中期の詩話集『破閑集』には大覚国師義天の高弟僧である恵素の逸話が伝わる。

「恵素は国王に華嚴経を講義して、多くの銀を賜った。恵素はその銀を全て費やして砂糖の塊を100個買い、自分の居所の内外に並べた。人がその理由を聞くに『これは私の生涯の好物であり、もし来年の春に商船が来なかったら、どこでこれを買えるものかと心配になったのだ』と答えた。聞いた者は皆その正直さに笑った」。

この話から当時、砂糖は高級な嗜好品だったこと、もっぱら貿易によって手に入れていたことが分かる。

また砂糖は薬剤でもあった。1607年(宣祖40年)、医官からの請求に対して国王がこう返事したことがある。「砂糖元が手に入るやいなや、今度は四味茶を請求する。明日は何の薬、何の茶のことを言ってくるのだ? 医官の許浚(ホ・ジュン)は実に医術に精通した良医だが、薬を用いるに軽率で、慎重ではない。この意を理解して処方せよ」。

宣祖が許浚の度重なる薬剤請求に閉口したという話だが、この中に「砂糖元」という薬名が現れる。こちらは許浚が記した『東医宝鑑』に説明が

あり、曰く「胃腸を整える。砂糖一両(40g)、縮砂の粉末(4g)、蜜を少々。よく混ぜて30粒の丸薬とし、細かく噛み砕いて飲み下す」とある。砂糖を固めた丸薬を胃腸薬として用いていたようだ。この他、朝鮮の医書には砂糖を用いた処方が多く記されている。

このような需要があった砂糖だが、朝鮮王朝時代を通じて貴重な舶来品であり、朝鮮初期は入手が困難になることもあったようだ。15世紀の朝鮮国王文宗(ムンジョン)は両親への孝が厚く、母の昭憲王后が病を得た時も自ら傍で世話をしていたが、病床の母が砂糖を求めるも果たせなかった。後に砂糖を手に入れた時は涙を流し靈殿に捧げた

と伝わる。朝鮮はサトウキビの産地としては寒冷な気候であることから砂糖の国産化が難しく、当時の甘味料は伝統的な蜂蜜や造清(水飴)だった。

とはいえ砂糖国産化の動きが全く無かったかといえそうではない。19世紀前半の百科事典『五洲衍文長箋散稿』にはこのようなことが書かれている。

「現在の世界において、サトウキビを育て製糖せざるところはなく、日常の料理に用いている。航路を四方に通じ、危険や困難をものともせず、互いに貿易し、天下の大切な物資としている。ただ我が国だけが独り然にあらず、もっぱら中国からの貿易に頼っている。最近、聞くとところによれば、湾府(関西地方義州)を経てサトウキビを得て栽培しているという。その汁を煮出した色は暗黄色で、品質は水飴のようだ。中国の砂糖と比較すると、あまりにも大きな差がある。今ここにサトウキビの栽培法と製糖方法を知り、志ある者が努力をすれば、どうして中国にかなわないことがあろうか」。こう述べた後、様々な技術書から栽培と製糖の方法を紹介し、砂糖の国産化を訴えた。

しかし、韓国の砂糖生産と普及は近代を待つことになる。20世紀初頭になり製糖工場が建築され、やがて1950年代に第一精糖(現CJ)が原材料を輸入した大規模な砂糖生産を始めた。いわゆる三白産業の一柱である。(好)



▲サトウキビ畑

◆◆映画紹介◆◆

彼らは生きていた

2週間ほど前、ある先輩の誘いでドキュメンタリー映画「彼らは生きていた」を見ました。私は見たことはないですが「ロード・オブ・ザ・リング」という有名な映画の監督が作ったということで話題です。

内容は1914年の第1次世界大戦開戦時、英国では志願兵の募集が各地方で盛んに行われました。志願対象は19歳～35歳まででしたが、19歳に満たない青年たちが年齢をごまかして入隊するケースも多くありました。当時、英国内では「お国のために戦おう」などのチラシが各所に貼られ、青年たちは入隊するのは当たり前、入隊しない男は臆病者扱いされました。入隊した青年たちは6週間の訓練を受け、西部戦線に赴き、ドイツ軍と戦闘を交えます。

しかし、実際の戦闘は彼らの想像をはるかに越えていました。正面からは銃撃、空から砲弾が飛

んでくる。友人・仲間はどうどん倒れていく中、前進するしかありません。最後は白兵戦になります。残酷な戦闘シーンが続く中、やがて終戦を迎えます。

映画の最初はモノクロの映像ですが、西部戦線のシーンからカラー映像になります。100年以上前の記録フィルムをカラー映像にした技術はお見事です。作り話ではなく、実際の戦闘シーンなので、死体などはとても生々しいです。

その後、「お国のために」戦って帰還した兵士たちの風当たりは強く、「帰還兵は応募不可」など仕事はなく、周りから感謝の言葉もなく、挙句の果

てには戦場に行ったのに「今までどこで、何をしていた？」と言われる有様です。

重たい内容ですが、戦争の恐怖、愚かさなど考えさせられ、特に若い世代の人には見てほしい映画です。(ソン)



◆行事紹介◆

日朝国交正常化の早期実現を求める市民連帯・大阪

第6回総会・記念講演会

日時：3月27日(金) 午後6時30分～

場所：エルおおさか709会議室

(京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分)

内容：第1部：総会

第2部：記念講演

「朝鮮半島情勢と日朝国交正常化について」

講師：李柄輝(イ・ビョンフィ)さん

朝鮮大学校文学歴史学部准教授

資料代：1000円

主催：日朝市民連帯・大阪 090-9697-0510(金)

韓統連セミナー

4・15韓国国会議員選挙と今後の朝鮮半島情勢

日時：4月26日(日) 午後2時～

場所：KCC会館5階ホール

(地下鉄今里駅下車徒歩7分)

内容：講演「4・15韓国国会議員選挙と

今後の朝鮮半島情勢」

講師：金昌五(キム・チャンオ)

韓統連大阪本部副代表委員

参加費：大人800円・青年学生：500円

主催：韓統連大阪本部 06-6711-6377

編集後記

韓国も日本も新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、大阪でも各種集会及び行事が延期、もしくは中止になっています。事務所の掲示板に貼っている各種案内ビラも数えるほど。正常な日常生活に早く戻りたいです。

(ソン)